京大広報

No. 565　2002. 2

目次

〈大学の動き〉
長尾総長の連合王国訪問……1198
部局長の再任……1198
外国人研究者との懇談会の開催……1198
「第２回京都大学国際シンポジウム」の報告…1198
自衛消防団員に感謝状授与……1199
平成14年度入学者選抜学力試験
（第２次学力検査）の期日等……1200
平成14年度入学者選抜学力試験
（第２次学力検査）の志願状況……1201
〈随想〉
嘘から出たまこと？　名誉教授　髙谷好一…1202
〈洛書〉
紙一重　池田浩士……1203
〈訃報〉……1204
〈医療技術短期大学部の動き〉
平成14年度医療技術短期大学部
入学者選抜学力試験の実施……1205
〈日誌〉……1205
〈話題〉
第17回国際生物学賞記念シンポジウム
「後生動物の起源と初期進化」の報告……1205
〈編集後記〉……1206

国際シンポジウムで挨拶をする長尾総長（エジンバラ大学）
－関連記事本文1198ページ－

京都大学広報委員会
http://www.kyoto-u.ac.jp/

大学の動き

長尾総長の連合王国訪問

長尾　真総長は，平成13年11月26日から12月２日まで連合王国を訪問した。

この間，ロンドン大学インペリアルアカレッジを訪問し，英国における高等教育及び学術に関する調査を行うとともに，ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）及びエジンバラ大学において「第２回京都大学国際シンポジウム－新世紀に直面する日本経済の変貌－」に出席した。

部局長の再任

高等教育教授システム開発センター長

荒木光彦工学研究科教授（電気工学専攻システム論講座（複合システム論））が，平成14年２月１日付けで高等教育教授システム開発センター長に再任された。任期は平成16年１月31日まで。

外国人研究者との懇談会の開催

総長主催の外国人研究者との懇談会が，平成13年12月19日（水）午後６時より京大会館において開催された。この会は，平成７年度より毎年開催されており，本学の教官と外国人研究者との交流を図り懇親を深める良い機会となっている。本年度も，総勢約250人の出席者を得，会場ではそこかしこで談笑の輪が広がり，盛会のうちに午後８時過ぎに閉会した。

「第２回京都大学国際シンポジウム」の報告

このシンポジウムは，昨年度から始められたもので，京都大学の学術研究を世界に向けて発信する事を目的に海外で開催することを前提としている。また，学会発表より幅の広い包括的な内容を持ち，複数部局が協力して開催し，京都大学をアピールすることを目標としている。

第１回シンポジウムは，情報学研究科が中心となり昨年１月にカリフォルニア州サンタクララで開催された。

今回の第２回シンポジウムはテーマを「Changes in the Japanese Economy Facing the New Century」とし，経済学研究科と経済研究所の教官を中心に，バブル崩壊後の日本経済の現状と将来を「市場」,「制度」，そして「政策」の三側面に分けて報告することとなった。シンポジウムは赤岡　功副学長，本山美彦経済学研究科長を含め，森棟公夫，曳野　孝（経済学研究科）を中心とする実行委員会により準備が進められた。平成13年11月28日（水）にロンドン大学の傘下にある School of Oriental and African Studies（SOAS）で，また同30日（金）にはエジンバラ大学で開催され無事に終了することができた。報告者および討論者は長尾　真総長の他，曳野　孝，下谷政弘，久本憲夫，西村周三（経済学研究科），刈屋武昭，岩本康志（経済研究所）および両大学を

中心とした12名であった。プログラムの詳細は http : //www.kyoto-u.ac.jp/kokuryu/UKsympo-j/index.html を参照されたい。

英国を開催国として選んだのは，同国がバブル崩壊後の低迷状態を脱しきれない日本経済の現状と同様の経験をしており，日本の将来について日英の研究者，企業人が忌憚のない意見を交換することが期待されたからである。また，スコットランドと日本の学術交流が希有であることから，共催の日本学術振興会の是非にという勧めもあり，ロンドンだけでなくエジンバラでも会場を持った。さらに日本政府が英国で日本紹介事業「Japan2001」を実施していたが，本シンポジウムがその一環として認められたことから，在連合王国日本国大使館，在エジンバラ日本国総領事館にも大変お世話になった。

海外でシンポジウムを開催する場合には，いかにして当日の参加者を確保するかが最大の課題になる。その点も考慮して当地の大学と共催するという計画が立てられたのだが，京都大学を海外でアピールするという色合いのためスタートは苦しく，共催を頼んだ大学に断られたりもした。アジア研究が活発なSOAS は共催には好意的であったが，SOAS 側の担当となった教官にとっては厄介者が飛び込んできたということだったかも知れない。我々には当地の意志決定の仕方が理解できず，また春休みと夏休みが長いこともあり，連絡等なかなか進展せず非常にやきもきした。エジンバラについてはもっとひどく，八月半ばまで共催するか否かも分からないという状況だった。両開催地とも各報告の討論は現地の研究者に頼むという原則で準備を進めたが，エジンバラ

SOAS での講演風景

については一週間前になってやっと討論者が決まるというせっぱ詰まった状態だった。しかし，我々がエジンバラ入りしてからの当大学の歓迎ぶりはロンドン以上で，シンポジウムとしてはこちらの方が成功であったような感じがする。会場となったプレイフェアー・ライブラリーは1815年に建てられた石造りの建物で，その荘厳さ，会場に並べられた胸像の列，控え室に飾られている数々の肖像画などに京大関係者は圧倒される思いをした。

参加者の確保のために，日本経済新聞と JETRO（日本貿易振興会）ロンドンにも共催をお願いした。日本経済新聞ヨーロッパ版に社告を出してもらい，JETRO からもシンポジウムの案内を相当数の企業に配布していただいた。SOAS 会場ではほぼ200名の参加者を得たが，その内大学関係者は半数の100名ほどだった。エジンバラでは90名ほどの参加者を得，やはり半数が当地の大学関係者であった。のこり半分は共催者の尽力により参加を得たようである。

（国際交流委員会）

自衛消防団員に感謝状授与

平成13年12月26日（火）午後４時20分から事務局大会議室において，自衛消防団員に対して総長からの感謝状及び記念品が本間政雄事務局長より贈呈された。

この日感謝状を受けた団員は，湯浅純明，鳥塚長睦（総務部），竹下基幸，坂本雄美（経理部），竹中寛治（医学部）の各氏である。

なお，当日午後２時から，自衛消防団による演習が行われ，日頃の訓練成果が披露された。

平成14年度入学者選抜学力試験（第２次学力検査）の期日等

平成14年度入学試験（第２次学力検査）を，次の予定で実施する。

○前期日程試験

月　日	教科等	学　　部	時　　間
2月25日（月）	国　語	総合人間「理系」・理・医・薬・農	9時30分～11時
		総合人間「文系」・文・教育・法・経済「一般」	9時30分～11時30分
	数　学	総合人間「文系」・文・教育・法・経済	13時～15時
		総合人間「理系」・理・医・薬・工・農	13時～15時30分
2月26日（火）	外国語	総合人間・文・教育・法・経済「一般」・理・医・薬・工・農	9時30分～11時30分
	論　文	経済「論文Ⅰ」	9時30分～12時30分
	地理歴史	総合人間「文系」・文・教育・法・経済「一般」	13時～14時30分
	理　科	総合人間「理系」・理・医・薬・工・農	13時～15時30分
	論　文	経済「論文Ⅱ」	14時～17時

○後期日程試験

月　日	教科等	学　　部	時　　間
3月13日（水）	数　学	総合人間・教育・経済・農（食料・環境経済学科）	9時30分～11時30分
		理・医・薬・工（地球工学科，建築学科A・B選抜，物理工学科）・農（資源生物科学科，応用生命科学科，地域環境工学科，森林科学科）	9時30分～12時
	論　文	工（電気電子工学科，工業化学科）	9時30分～11時30分
	論　述	工（情報学科）	9時30分～12時
	国　語	総合人間・文・教育・経済・農（食料・環境経済学科）	13時30分～15時30分
	理　科	工（建築学科A選抜）※物理のみ	13時30分～15時
		理・医・薬・工（地球工学科）・農（資源生物科学科，応用生命科学科，地域環境工学科，食料・環境経済学科，森林科学科）	13時30分～16時
	論　文	工（物理工学科）	13時30分～16時
	実技・論述	工（建築学科B選抜）	13時30分～17時30分
	面　接	農（食品生物科学科）	9時30分～11時30分 13時30分～16時30分
3月14日（木）	外国語	総合人間（独・仏・中国語）・文・教育・法・経済・医・農（資源生物科学科，応用生命科学科，食料・環境経済学科，森林科学科）	9時30分～11時30分
		総合人間（英語）	9時30分～11時50分
	面　接	工（物理工学科）	9時30分～12時30分 13時～16時30分
		工（工業化学科）	9時30分～12時 13時～18時
		工（建築学科B選抜，電気電子工学科）	13時～17時
		工（建築学科A選抜）	13時～18時
	論　文	文・教育・医・薬	13時～15時
		法	13時～15時30分
	口　述	工（情報学科）	13時～17時
	面　接	農（食品生物科学科）	9時30分～11時30分 13時30分～16時30分

平成14年度入学者選抜学力試験（第２次学力検査）の志願状況

志願票の受付は，１月28日（月）から２月６日（水）までの間に，各学部で行われた。
学部別の入学志願者数は，次表のとおりである。

学部			募集人員（人）	志願者数（人）	倍率	（参考）昨年度（最終） 募集人員	志願者数	倍率
総合人間学部	前期		110	401	3.6	110	441	4.0
		文系	55	180	3.3	55	234	4.3
		理系	55	221	4.0	55	207	3.8
	後期		20	371	18.6	20	372	18.6
文学部	前期		190	582	3.1	190	567	3.0
	後期		30	417	13.9	30	379	12.6
教育学部	前期		40	156	3.9	40	160	4.0
	後期		20	171	8.6	20	155	7.8
法学部	前期		320	835	2.6	320	883	2.8
	後期		40	474	11.9	40	478	12.0
経済学部	前期		210	943	4.5	210	798	3.8
		一般	160	623	3.9	160	473	3.0
		論文	50	320	6.4	50	325	6.5
	後期		30	749	25.0	30	595	19.8
理学部	前期		271	956	3.5	271	953	3.5
	後期		30	1,208	40.3	30	1,016	33.9
医学部	前期		90	467	5.2	90	431	4.8
	後期		10	230	23.0	10	229	22.9
薬学部	前期		70	276	3.9	70	212	3.0
	後期		10	195	19.5	10	151	15.1
工学部	前期		857	2,476	2.9	874	2,396	2.7
	後期		98	952	9.7	101	1,073	10.6
	地球工学科	前期	166	458	2.8	175	448	2.6
		後期	19	283	14.9	20	261	13.1
	建築学科	前期	72	281	3.9	80	241	3.0
		後期	8	84	10.5	10	127	12.7
		A選抜	4	48	12.0	5	84	16.8
		B選抜	4	36	9.0	5	43	8.6
	物理工学科	前期	211	671	3.2	211	592	2.8
		後期	24	224	9.3	24	191	8.0
	電気電子工学科	前期	117	263	2.2	117	328	2.8
		後期	13	95	7.3	13	136	10.5
	情報学科	前期	81	231	2.9	81	186	2.3
		後期	9	86	9.6	9	100	11.1
	工業化学科	前期	210	572	2.7	210	601	2.9
		後期	25	180	7.2	25	258	10.3
農学部	前期		233	753	3.2	240	736	3.1
	後期		67	954	14.2	60	799	13.3
	資源生物科学科	後期	19	197	10.4			
	応用生命科学科		9	148	16.4			
	地域環境工学科		11	161	14.6			
	食料・環境経済学科		9	182	20.2			
	森林科学科		12	189	15.8			
	食品生物科学科		7	77	11.0			
合計			2,746	13,566	4.9	2,766	12,824	4.6
	前期		2,391	7,845	3.3	2,415	7,577	3.1
	後期		355	5,721	16.1	351	5,247	14.9

《注》 後期日程の法学部と経済学部の募集人員及び志願者数には，それぞれ「外国学校出身者のための選考」の募集人員（法学部20人，経済学部10人）と志願者数（法学部37人，経済学部23人）が含まれている。

随想

嘘から出たまこと？

名誉教授　髙谷　好一

『美しい滋賀』という絵本を作ろうと思って歩き出してからもうかれこれ２年になります。２週間に１度の割で，友人の絵描きさんと二人で尾根を歩いたり，古刹を訪れたりしています。こんななかで，嘘からまことが出てきそうな気配があります。

もともとこんなことを思いついたのはこんな経緯があってのことです。在職中，私は東南アジア研究センターにいて地域研究なるものをやっておりました。その頃は「人びとは皆，独自の文化を持っていて，それに誇りを持っている」と主張し続けていました。ジャワにはジャワの，モンゴルにはモンゴルの独自の文化があって，皆，それに誇りを持っている。だから個別文化を無視するようなグローバリゼーションなどはいけない，といっていました。

そんな自分が30年ぶりに故郷の田舎に帰って最初に考えたことは，「おまえ自身はどうなんだ。」ということでした。「今度はお前の番だ。おまえは自分の滋賀に誇りを持っているのか。」ということでした。地域研究はこうして退官の日からは自分自身と故郷の研究に変わらざるをえなかったのです。実のことをいうと，恥かしながら，私はそれほど故郷の滋賀に誇りを持っていなかったのです。

でも幸いなことに，この時私はちょっとした啓示（?）を受けました。「滋賀は美しい」，そういう声がどこからか聞こえてきたのです。本当の啓示なのか，自分の作為だったのか，今もって確かとはしないのですが，とにかくこういう言葉が私の目の前に現われたのです。こうして，私の自分研究はこの言葉を中心に進み始めたのです。今，山を歩き回っている，というのはこのためです。美しい滋賀を求めてなのです。

私達は出かけると，なるだけ景色のよい所で弁当を食べます。食後，友人は半時間か小一時間，写生をします。その間私はぼんやりします。１本の缶ビールで結構気持ちのよくなった私は，自分も絵が描けたらナ，などと思いながら景色を見るのです。アルコールのせいでしょうか，同じ前景が刻々と違ったものに見えて行きます。そして，そのうち目を閉じて寝てしまうこともあります。

こんなことを繰りかえしやっているうちに，不思議な体験をしました。空に向けて勢いよく枝を伸ばしているケヤキの大木がありました。そしてそれよりちょっと手前に，今度は横に枝を張っている貧弱なネズミモチの木がありました。何でもない二本の木の組み合わせなのですが，それがその時は絶妙の組み合わせに見えてきたのです。二本の木の根元にはゆるく下っていく尾根道が続いていました。その道沿いにはもっと小さな木やウラジロがありました。すっかり葉を落としたケヤキの梢の間から遠くの山がすけて見えていました。それが近いものは濃いブルーに遠い山は淡いブルーに見えていました。

そんなものを見ているうちに突然，「全てが共存している」「枯れ枝も，石ころも，不要なものは何ひとつない。みなその場を占めていて，この空間の必要不可欠の一員になっている」そんなことを強烈に感じたのです。

一度このことを経験してからは，ちょっと立ち止まって前景に目を留める度ごとにすぐに，この「共存」というものが目につくようになったのです。

不思議な気がいたしております。研究ということで民族の誇りを主張し，それが退官と共に自分の問題として降りかかって困り果てた私。それでも何とか「故郷は美しい」などと，なかば自分を騙して，呪文を唱えつづけていたのですが，いつの間にやら，そこからまことがでる気配が少し感じられるこの頃なのです。あるいは，イヌも歩けばボウにあたる，ということなのかも知れません。

（たかや　よしかず　元東南アジア研究センター教授
平成７年退官，専門は地域研究論）

洛書

紙　一　重

池田　浩士

ずいぶん昔になるが，入試に論文試験を加える私立大学が少なくなかった時代のこと，××大学△△学部の入試で，採点委員に頭をかかえさせるような答案がひとつ出現した。

与えられた論題は「××大学△△学部への期待」という至極単純なものだったのに，その受験生は，「盲腸手術後の患者の生理と心理」から説き起こして，「ドイツ語の風＝Wind は男性」だの，「放屁合戦図が鳥羽僧正の作という謬見が」だのと，よくもまあ２時間でこれだけの大論文を，と感心するしかないような蘊蓄のかぎりを傾けた答案を書き上げていた。ただ，どうやらオナラというものに人並みはずれた執着心をいだいているらしいことは推測できても，これが論題とどう関係するのか，採点委員のだれひとり理解できないのである。ものの半日も首をかしげたすえ，ひとりがポンと膝を打った。

論文試験の問題は，各試験場でそれぞれ黒板に板書することになっていた。ある試験場で，デカデカと論題を書き出した試験官が，「……△△学部」まで書いたところで下につかえたので，改行したのである。件の受験生は，１行目は念のために受験学部名を記したものと思い込み，ひたすら「への期待」という難題と取り組んで敢闘したのだった。

これを私たちに話してくれたのは，高名な歴史学の教授だった。この先生は，学年末試験で自分の担当ではない科目の監督に来ると，のべつ幕無しに雑談をするので，一部の学生からは迷惑がられていたようだが，私自身は，卒業までに２回も先生の試験監督に巡り合う幸運を体験した。もう１回のときは，こういう話だった ── あるとき先生のところへひとりの学生がやってきて，古代イスラエルのダムという王様に非常に興味をもっているので卒論のテーマにしたいと思うのだが，参考資料がなかなか見つからない，ご教示いただけないだろうか，という。古代中東史が専門の先生はハタと困った。恥ずかしいことに，知らないのだ。どこでそのダム王のことを知ったのか，と問うてみると，英語の文献だそうだ。困り果てた先生は，「その文献にどう書いてあったのかね」と尋ねざるをえなかった。すると学生は，「はい，ザ・キングダム・オヴ・イスラエルと書いてあります」と答えたのである。

昔はこういう学生や学生候補が，いまよりは多くいたらしい。昔から「天才と馬鹿とは紙一重」というが，むべなるかなと言うべきである。この２人だけでなく，２人のことを試験監督業務中に大声で語った先生もまた，この部類に属することは間違いない。では，いったいかれらは天才なのか，それとも馬鹿なのか？ ── これは大問題だ。が，常識的に考えれば，天才なら大学になど入るわけはないし，入る必要もない。したがってまた教授をやっているわけもない。だとすれば馬鹿の可能性が高いことになるが，まあここは，「かれらは天才でも馬鹿でもなく，まさにその紙一重のところに位置しているのだ」ということにしておこう。作家の火野葦平は，河童というのは馬の足あとに溜まった水の中にも３千匹は住めるのである，と書いているが，この紙一重の狭いところに，京都大学だけでも数千人の教員と数万人の学生が住んでいる。紙一重というのはなんと幅が広いものかと感心せざるをえないのだが，問題は，同じ紙一重でいながらもせめて心して馬鹿に近いところに立つ自分を見つめようとする人間が，近ごろの大学にはめっきり少なくなったことだ。短期的な業績の審査だの，ベスト30の研究プロジェクトにカネをばらまくだの，まるで人間が労役動物や機械にたいしてやってきたような仕打ちが，大学で罷り通るのだから，紙一重の空間では馬鹿にされたくなければ天才のふりをしなければならない。

だが，同じ紙一重でも，一途に思い込んで屁の期待を考え抜いた受験生や，存在すらしなかった古代の王に恋してしまった歴史学科の大学生の，なんと馬鹿に近いことか。じつは，まだ天才にもなりうるし大馬鹿にもなりうる本当の紙一重の場にいる初心者に必要なのは，この一途さと恋ごころなのだ。そして，大学は初心者を失えば死ぬのである。

（いけだ　ひろし　総合人間学部教授）

訃報

このたび，藤井（ふじい）　栄（しげる）工学研究科助教授，中村順一（なかむらじゅんいち）総合情報メディアセンター教授が逝去されました。
ここに，謹んで哀悼の意を表します。
以下に両氏の略歴，業績等を紹介します。

藤井　栄　工学研究科助教授

藤井　栄先生は，平成13年12月14日逝去された。享年45。

先生は，昭和54年京都大学工学部建築学第二学科を卒業後，本学助手を経て，平成７年から助教授を務められ，その間，建築学に関する教育研究に邁進された。

先生は，鉄筋コンクリート造耐震建物に於ける鉄筋とコンクリートの付着割裂特性，柱・梁接合部の強度研究の我が国に於ける第一人者として活躍された。精緻な実験と分析に基づいて構築された理論は，国内外で高い評価を受けると共に，日本建築学会の規準・指針類に適用され，鉄筋コンクリート造建物の耐震設計に幅広く用いられる等，学会及び建築産業界に大きく貢献された。また，近年は，炭素繊維等の繊維補強材の応用研究にも従事され，研究成果は既存鉄筋コンクリート造建物の耐震改修に適用されている。

主な著書に，『材料と評価の最前線』，『鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説』，『阪神・淡路大震災調査報告－建築編』（いずれも共著）がある。

（大学院工学研究科）

中村　順一　総合情報メディアセンター教授

中村順一先生は，平成13年12月23日逝去された。享年45。

先生は，昭和54年京都大学工学部電子工学科を卒業後，同大学院修士課程電気工学第二専攻，引き続き博士後期課程に進学され，昭和57年より同大学工学部助手を務められた。平成元年九州工業大学情報工学部助教授，同教授を経て，平成９年10月京都大学総合情報メディアセンター教授に就任，教育支援部門情報処理教育分野を担当された。

先生は，長尾　真教授の指導の下で科学技術庁の機械翻訳プロジェクトに参画され，昭和61年第１回電子情報通信学会元岡賞を受賞されるなど，自然言語処理における先駆的な研究をされ，近年はマルチモーダルな環境認識に基づく俳句の生成に関する研究など，極めて学際的な研究を開始された。また，情報ネットワークやインターネットの果たす役割についていち早く認識され，九州工業大学および京都大学における情報基盤の整備に多大な貢献をされるとともに，その新たな利用形態についての研究を行われた。

（総合情報メディアセンター）

医療技術短期大学部の動き

平成14年度医療技術短期大学部入学者選抜学力試験の実施

平成14年度入学試験を，次の予定で実施する。

月　日	教　科	時　間
3月2日(土)	国　語	9時 ～ 10時30分
	数　学	11時 ～ 12時30分
	外国語	14時 ～ 15時30分
3月3日(日)	理　科	9時 ～ 11時

なお，1月25日（金）から1月31日（木）まで入学願書の受付が行われた。

学科別の入学志願者数は，次表のとおりである。

学　科	募集人員	志願者数	倍率	（参考）昨年度		
				募集人員	志願者数	倍率
看護学科	80	342	4.3	80	234	2.9
衛生技術学科	40	297	7.4	40	309	7.7
理学療法学科	20	246	12.3	20	231	11.6
作業療法学科	20	187	9.4	20	169	8.5
計	160	1,072	6.7	160	943	5.9

日誌　2001.12.1～12.31

12月4日　評議会
〃　新キャンパス・建築合同委員会
〃　先端科学研究棟運営協議会
7日　人権週間に因む研修会
11日　放射性同位元素等管理委員会
〃　セクシュアル・ハラスメント窓口相談員のための研修会
〃　能楽鑑賞会
13日　同和・人権問題委員会
18日　評議会
〃　教育課程委員会
19日　国際交流委員会
〃　国際交流会館委員会
〃　外国人研究者との懇談会
27日　制規等専門委員会

話題

第17回国際生物学賞記念シンポジウム「後生動物の起源と初期進化」の報告

京都大学は，第17回国際生物学賞（日本学術振興会国際生物学賞委員会）記念シンポジウム「後生動物の起源と初期進化」を，平成13年12月5日，6日に京都リサーチパークにおいて開催した。

このシンポジウムは，英国ケンブリッジ大学名誉教授ハリー・ブラックモア・ウィッティントン博士の同賞受賞を記念するもので，本学瀬戸口烈司総合博物館長が今年度授賞分野の古生物学を研究分野とすることから，本学主催で開催されたものである。

ウィッティントン博士は長年にわたり三葉虫類の体構造・生態・進化に関する傑出した研究を続け，この化石生物に関する生物学的知見を著しく高めたことから，シンポジウムでは約5億4,500万年前，カンブリア紀初期における多様な後生動物（多細胞動物）の起源と進化にスポットをあて，以下のような講演において国内外から招かれた著名な研究者により研究成果が紹介された。

この他，来日中であったアドルフ・ザイラッハー教授（ドイツ・チュービンゲン大学）から関連の話題提供もあり，講演後は講演者と国内研究者との白

熱した議論が展開された。また，５日のシンポジウム後のレセプションでも，講演者を中心に歓談の輪が広がった。当日は，中西釧治日本学術振興会理事から挨拶を頂き，また沢田敏男元総長を始め，100名近くの参加者があり，盛況のうちに終了した。

なお，当時の様子を知ることの出来るバージェス頁岩の化石は総合博物館において常設展示されている。

講演題目等

「バージェス頁岩：回顧と展望」　ハリー・ブラックモア・ウィッティントン博士

「原生代の化石記録と後生動物の起源」
ミハイル・A・フェドンキン博士（ロシア科学アカデミー古生物学研究所）

「中国，雲南のカンブリア紀初期微江化石動物群：地球最古の動物たち」　侯先光教授（中国・云南大学）

「カンブリア紀の後生動物に見られる鉱化したトゲ，鱗，殻などの起源」
ステファン・ベングソン博士（スウェーデン自然史博物館）

「ヤツメウナギの発生生物学と脊椎動物の顎の進化」　倉谷　滋教授（岡山大学）

「『カンブリア大爆発』に収斂しよう」　サイモン・コンウェイ・モリス教授（ケンブリッジ大学）

「'Orsten' のタイムトンネル：カンブリア紀後期の立体的に保存された小さな化石たちと節足動物の進化」
ディーター・ワロセック教授（ドイツ・ウルム大学）

講演するウィッティントン博士

（総合博物館）

編集後記

その昔，○○○単独会見記という架空の記事を掲載した某大新聞があった。しかし，考えてみると，人々がかくあるに違いない，あってほしい，という頭の中に存在しているイメージを文章化した，という意味でまったく無意味な絵空事ではない気がする。おそらく，編集者にも真実味が感じられたから採用になったのであろう。ところで，京大広報の場合はどうであろうか。編集委員会の厳しいチェックによって，一言一句，客観的事実に反することは載せていない。しかし，それが読者の関心を引かない場合は，読者の頭の中に京大広報が存在しない，ということでもある。京大構成員にとって関心のある事実（頭の中の観念も含めて）を提供するのが京大広報の役目ではなかろうか，と編集委員会からの道々考えた。（河野記）